

重点取組分野	令和 4 年度			重点取組分野	令和 5 年度			重点取組分野	令和 6 年度			
	具体的取組	自己評価結果	総括		具体的取組	自己評価結果	総括		具体的取組	自己評価結果	総括	
確かな学力	①国語科や算数科を中心とした個別最適な学びについて、授業研究と協議会を通して教師の指導力を高める。GIGA端末の活用や指導の個別化、特別支援的な視点等を特に大切にしながら研修及び実践授業を学ぶ。②横浜市学力・学習状況調査の結果を分析し、職員の力量を高めよう。各学年で学習内容を分析しながら共有し、日々の指導・支援に生かす。	①授業研究と協議会により、個別最適な学びについての理解を深め、個に応じた学習を意図した授業づくりを行ってきた。②ICT端末の活用方法を研究することにより、より個別最適な学びになるように務めてきた。③横浜市学力・学習状況調査の結果を分析し、職員の力量を高めよう。各学年で学習内容を分析しながら共有し、日々の指導・支援に生かす。	B	確かな学力	①算数科を中心とした個別最適な学びと協働的な学びについて、授業研究と協議会を通して教師の指導力を高める。GIGA端末、AI・リルの活用や指導の個別化、特別支援的な視点等を特に大切にしながら研修及び実践授業を学ぶ。②横浜市学力・学習状況調査の結果を分析し、職員の力量を高めよう。各学年で学習内容を分析しながら共有し、日々の指導・支援に生かす。	①算数科を中心とした個別最適な学びと協働的な学びについて、授業研究と協議会を通して教師の指導力を高める。GIGA端末、AI・リルの活用や指導の個別化、特別支援的な視点等を特に大切にしながら研修及び実践授業を学ぶ。②横浜市学力・学習状況調査の結果を分析し、職員の力量を高めよう。各学年で学習内容を分析しながら共有し、日々の指導・支援に生かす。	B	確かな学力	①国語科や算数科を中心とした個別最適な学びについて、授業研究と協議会を通して教師の指導力を高める。GIGA端末の活用や指導の個別化、特別支援的な視点等を特に大切にしながら研修及び実践授業を学ぶ。②横浜市学力・学習状況調査の結果を分析し、職員の力量を高めよう。各学年で学習内容を分析しながら共有し、日々の指導・支援に生かす。	①授業研究と協議会により、個別最適な学びについての理解を深め、個に応じた学習を意図した授業づくりを行ってきた。②ICT端末の活用方法を研究することにより、より個別最適な学びになるように務めてきた。③横浜市学力・学習状況調査の結果を分析し、職員の力量を高めよう。各学年で学習内容を分析しながら共有し、日々の指導・支援に生かす。	B	確かな学力
豊かな心	①道徳教育の充実を図り、自他よきに関わり、認め合う心育てる。②本物に触れる体験的な活動を取り入れる。③読書タイムや読み聞かせ活動、また教科書教材と関連させて本を読む並行読書の読書活動の充実を図る。④全校であいさつ運動を推進する。	①道徳の授業を通して、自分を見つめることができた。学習計画が学校行事に沿っていたので、自分ごととして見つめる姿があった。②効果的に教科書を取り入れ、本物に出会うことで子どもは教科書からだけでなく、実感を伴った学びができた。③理科・総合的な学習の場での大切さや、環境を守りたい大切を感じることができた。④司書教諭と連携し、様々な本に触れる機会がたぐいあつたのでよかった。⑤年間を通してクラス毎で挨拶活動を実施した。かすつ指手標語をもった自然な挨拶ができるようになってきた。	A	豊かな心	①道徳教育の充実を図り、自他よきに関わり、認め合う心育てる。②本物に触れる体験的な活動を取り入れる。③読書タイムや読み聞かせ活動、また教科書教材と関連させて本を読む並行読書の読書活動の充実を図る。④全校・中学校ブロックであいさつ運動を推進する。	①道徳教育の充実を図り、自他よきに関わり、認め合う心育てる。②本物に触れる体験的な活動を取り入れる。③読書タイムや読み聞かせ活動、また教科書教材と関連させて本を読む並行読書の読書活動の充実を図る。④全校・中学校ブロックであいさつ運動を推進する。	B	豊かな心	①道徳教育の充実を図り、自他よきに関わり、認め合う心育てる。②本物に触れる体験的な活動を取り入れる。③読書タイムや読み聞かせ活動、また教科書教材と関連させて本を読む並行読書の読書活動の充実を図る。④全校であいさつ運動を推進する。	①道徳の授業を通して、自分を見つめることができた。学習計画が学校行事に沿っていたので、自分ごととして見つめる姿があった。②効果的に教科書を取り入れ、本物に出会うことで子どもは教科書からだけでなく、実感を伴った学びができた。③理科・総合的な学習の場での大切さや、環境を守りたい大切を感じることができた。④司書教諭と連携し、様々な本に触れる機会がたぐいあつたのでよかった。⑤年間を通してクラス毎で挨拶活動を実施した。かすつ指手標語をもった自然な挨拶ができるようになってきた。	A	豊かな心
健やかな体	①前年度の反省を活かしながら、体育科カリキュラムの系統性を意識し、小学校6年間を通して、計画的に体力向上を図れるようにする。体育課本動きを授業活動にも発注し、活用していく。②運動用具の環境整備と活用した遊びの提案をし、日常的な体力アップを図り、運動を楽しむ心を育てる。③睡眠をとることの意義を伝え、睡眠を大切にしているような発言活動をしていく。	①体育科カリキュラムは、6年間の系統を踏まえて单元記号等の調整を行った。運動器材から環境まで行う。児童・教員の両方を行った。体育課本に問わず、被服資料等を共有して予定。②遊び方の提案を踏まえて、中核的な運動用具出し内容の整理を促した。子供が好きな遊びをやりたいという声も聞かれた。遊具上の興味関心を促すために、遊びの紹介動画を全校公開した。③睡眠の大切さを長期休みのカードや学校保健委員会を通じて意識化を図った。	B	健やかな体	①小学校6年間を通して、計画的に体力向上を図れるようにする。体育課本の動きを映像化したものを発信し、活用していく。②運動用具の環境整備と用具の活用した遊びの提案をし、日常的な体力アップを図り、運動を楽しむ心を育てる。	①小学校6年間を通して、計画的に体力向上を図れるようにする。体育課本の動きを映像化したものを発信し、活用していく。②運動用具の環境整備と用具の活用した遊びの提案をし、日常的な体力アップを図り、運動を楽しむ心を育てる。	B	健やかな体	①前年度の反省を活かしながら、体育科カリキュラムの系統性を意識し、小学校6年間を通して、計画的に体力向上を図れるようにする。体育課本動きを授業活動にも発注し、活用していく。②運動用具の環境整備と活用した遊びの提案をし、日常的な体力アップを図り、運動を楽しむ心を育てる。③睡眠をとることの意義を伝え、睡眠を大切にしているような発言活動をしていく。	①体育科カリキュラムは、6年間の系統を踏まえて单元記号等の調整を行った。運動器材から環境まで行う。児童・教員の両方を行った。体育課本に問わず、被服資料等を共有して予定。②遊び方の提案を踏まえて、中核的な運動用具出し内容の整理を促した。子供が好きな遊びをやりたいという声も聞かれた。遊具上の興味関心を促すために、遊びの紹介動画を全校公開した。③睡眠の大切さを長期休みのカードや学校保健委員会を通じて意識化を図った。	B	健やかな体
地域連携	コーディネーターを中心に構築してきた支援組織を見直し、学習支援ボランティアの募集や保護者との関わりを充実させ、豊かな学びを支援する。また活動が促進し、学校と地域の連携を深める。②地域の代表者との懇話会を通して地域での様子の情報を共有し、学習や指導に生かす。	①学校として学習支援ボランティアの体制を整えることができた。スクリーンを利用したボランティアの呼びかけ、地域コーディネーターとの連携がスムーズにできるよようになった。来年度以降も積極的にボランティアと連携できるようにしていく。②懇話会は3月に開催される。	B	地域連携	①コーディネーターを中心に、学習支援ボランティアの募集や保護者との関わりを充実させ、豊かな学びを支援する。②活動を発信し、学校と地域の連携を深める。③地域の代表者との懇話会を通して地域での様子の情報を共有し、学習や指導に生かす。	①コーディネーターを中心に、学習支援ボランティアの募集や保護者との関わりを充実させ、豊かな学びを支援する。②活動を発信し、学校と地域の連携を深める。③地域の代表者との懇話会を通して地域での様子の情報を共有し、学習や指導に生かす。	B	地域連携	コーディネーターを中心に構築してきた支援組織を見直し、学習支援ボランティアの募集や保護者との関わりを充実させ、豊かな学びを支援する。また活動が促進し、学校と地域の連携を深める。②地域の代表者との懇話会を通して地域での様子の情報を共有し、学習や指導に生かす。	①学校として学習支援ボランティアの体制を整えることができた。スクリーンを利用したボランティアの呼びかけ、地域コーディネーターとの連携がスムーズにできるよようになった。来年度以降も積極的にボランティアと連携できるようにしていく。②懇話会は3月に開催される。	B	地域連携
いじめへの対応	①学校いじめ防止基本方針に基づいて取り組みを行う。学校いじめ防止対策委員会を月一回以上定期的に、いじめの発生の様子を把握し未然防止に努め、いじめの発生にに対しては素早く対応していく。②いじめの捉え方や対応の仕方を職員間で共通認識して、いじめにつながる行動に対応できるようにする。	①学校いじめ防止対策委員会を定期的に、いじめ防止だけでなく、自慢から子どもたちの様子を職員間で共有されている。そのため、いじめにつながる前に指導、支援につなげることができた。いじめが発生した場合も保護者と連絡を取り合い、子どもへの支援につなげられた。②学年等で子どもたちの気になるとき丁寧に共有することで、問題が大きくなる前に対応できた。	B	いじめへの対応	①学校いじめ防止基本方針に基づいて取り組みを行う。学校いじめ防止対策委員会を月一回以上定期的に、いじめの発生の様子を把握し未然防止に努め、いじめの発生にに対しては素早く対応していく。②いじめの捉え方や対応の仕方の研修し、職員間で共通認識する。③定期的な気になる児童の共有を行い、いじめにつながる行動に対応できるようにする。	①学校いじめ防止基本方針に基づいて取り組みを行う。学校いじめ防止対策委員会を月一回以上定期的に、いじめの発生の様子を把握し未然防止に努め、いじめの発生にに対しては素早く対応していく。②いじめの捉え方や対応の仕方の研修し、職員間で共通認識する。③定期的な気になる児童の共有を行い、いじめにつながる行動に対応できるようにする。	B	いじめへの対応	①学校いじめ防止基本方針に基づいて取り組みを行う。学校いじめ防止対策委員会を月一回以上定期的に、いじめの発生の様子を把握し未然防止に努め、いじめの発生にに対しては素早く対応していく。②いじめの捉え方や対応の仕方を職員間で共通認識して、いじめにつながる行動に対応できるようにする。	①学校いじめ防止対策委員会を定期的に、いじめ防止だけでなく、自慢から子どもたちの様子を職員間で共有されている。そのため、いじめにつながる前に指導、支援につなげることができた。いじめが発生した場合も保護者と連絡を取り合い、子どもへの支援につなげられた。②学年等で子どもたちの気になるとき丁寧に共有することで、問題が大きくなる前に対応できた。	B	いじめへの対応
人材育成・組織運営(働き方)	①メンターチーム研修を計画的に行い、互いに授業公開や意見交換の場を作り実践力を高める。	メンターチームで年間計画を立て、積極的な授業公開や意見交換を行い、主体的に研修を進めていた。若手教員は、話を聞いて学ぶという姿勢。また、先輩教員も多岐にわたる機会をもち、支援が必要な児童に対してチームでの対応ができた。	A	人材育成・組織運営(働き方)	①メンターチーム研修を計画的に行い、互いに授業公開や意見交換の場を作り実践力を高める。②打ち合わせ等で児童の共有を行い、支援が必要な児童に対してチームでの対応を行う。③授業公開後に、アドバイス・意見交換を行う。	①メンターチーム研修を計画的に行い、互いに授業公開や意見交換の場を作り実践力を高める。②打ち合わせ等で児童の共有を行い、支援が必要な児童に対してチームでの対応を行う。③授業公開後に、アドバイス・意見交換を行う。	A	人材育成・組織運営(働き方)	①メンターチーム研修を計画的に行い、互いに授業公開や意見交換の場を作り実践力を高める。	メンターチームで年間計画を立て、積極的な授業公開や意見交換を行い、主体的に研修を進めていた。若手教員は、話を聞いて学ぶという姿勢。また、先輩教員も多岐にわたる機会をもち、支援が必要な児童に対してチームでの対応ができた。	A	人材育成・組織運営(働き方)
特別支援教育	①個別学級担任と交流級担任、特別支援教室担当と担任が丁寧に情報を共有し、どの子も安心して学習したり学校生活を送ったりできるように環境を整える。場合によっては、特別支援コーディネーターも交え、その子に合わせた指導や支援の方法について学び合っていく。②発達障害の特性等についての理解を深め、全職員で共通理解をし、指導に生かす。	①個別級と交流級の両担任や、取り出し担当と担任は、自慢から丁寧に情報共有を行い、個に応じた指導、支援ができるよう取り組んできた。特別支援コーディネーターも交えて、その子に合わせた指導や支援ができてきた。②コーディネーターを中心に発達障害の特性等への問題行動をその都度取り上げ、学年研究会を中心に共通理解を図ることができるよう努力した。	B	特別支援教育	①個別学級担任と交流級担任、特別支援教室担当と担任が丁寧に情報を共有し、どの子も安心して学習したり学校生活を送ったりできるように環境を整える。場合によっては、特別支援コーディネーターも交え、その子に合わせた指導や支援の方法について学び合っていく。②発達障害の特性等についての理解を深め、全職員で共通理解をし、指導に生かす。	①個別学級担任と交流級担任、特別支援教室担当と担任が丁寧に情報を共有し、どの子も安心して学習したり学校生活を送ったりできるように環境を整える。場合によっては、特別支援コーディネーターも交え、その子に合わせた指導や支援の方法について学び合っていく。②発達障害の特性等についての理解を深め、全職員で共通理解をし、指導に生かす。	B	特別支援教育	①個別学級担任と交流級担任、特別支援教室担当と担任が丁寧に情報を共有し、どの子も安心して学習したり学校生活を送ったりできるように環境を整える。場合によっては、特別支援コーディネーターも交え、その子に合わせた指導や支援の方法について学び合っていく。②発達障害の特性等についての理解を深め、全職員で共通理解をし、指導に生かす。	①個別級と交流級の両担任や、取り出し担当と担任は、自慢から丁寧に情報共有を行い、個に応じた指導、支援ができるよう取り組んできた。特別支援コーディネーターも交えて、その子に合わせた指導や支援ができてきた。②コーディネーターを中心に発達障害の特性等への問題行動をその都度取り上げ、学年研究会を中心に共通理解を図ることができるよう努力した。	B	特別支援教育
人権教育	①あいさつ運動の大切さを知らせ、個々に課題をもって「あいさつ運動」に取り組むよう働きかける。②人権週間や学年ごとに人権を考える授業を行い、「だれもが」安心して「豊かに」生活できる学校を目指す。	①あいさつ運動を年間を通して全クラス行うことで児童があいさつを意識して、自分から積極的に言うようになった。教職員もあいさつに対して悪い意識をもって取り組んでいた。さらに日常的なおいさつ意識を高める必要があった。②人権週間では各クラスで授業を行い、各学年の代表者が全校児童に発表したり特活部と協力して様々な取り組みをしたりすることで人権意識が高まった。	B	人権教育	①中学校ブロックであいさつ運動の大切さを広め、個々に課題をもって「あいさつ運動」に取り組むよう働きかける。②人権週間や学年ごとに人権を考える授業を行い、「だれもが」安心して「豊かに」生活できる学校を目指す。	①中学校ブロックであいさつ運動の大切さを広め、個々に課題をもって「あいさつ運動」に取り組むよう働きかける。②人権週間や学年ごとに人権を考える授業を行い、「だれもが」安心して「豊かに」生活できる学校を目指す。	B	人権教育	①あいさつ運動の大切さを知らせ、個々に課題をもって「あいさつ運動」に取り組むよう働きかける。②人権週間や学年ごとに人権を考える授業を行い、「だれもが」安心して「豊かに」生活できる学校を目指す。	①あいさつ運動を年間を通して全クラス行うことで児童があいさつを意識して、自分から積極的に言うようになった。教職員もあいさつに対して悪い意識をもって取り組んでいた。さらに日常的なおいさつ意識を高める必要があった。②人権週間では各クラスで授業を行い、各学年の代表者が全校児童に発表したり特活部と協力して様々な取り組みをしたりすることで人権意識が高まった。	B	人権教育
児童指導	①学年研究会・職員会議の中で定例化した「児童理解」の場を設け、情報を共有し、問題を共通理解する。②「下野庭スタダール」を基にした指導の確認をするとともに、児童の状況や支援策を共有し、指導に生かす。	①児童の打ち合わせなど定例化されたものはもちろん、それだけでなく自慢から児童について情報共有を行うことができた。ただ、何を伝えるかについての基準ははっきりしていなかった。目的をはっきりさせる必要がある。②スタダールの中にタブレットの項目を作ったことで、安心してタブレットを使用させることができた。さらに学校全体で統一して指導できるよう、共通理解を図る必要がある。	B	児童指導	①学年研究会・職員会議の中で定例化した「児童理解」の場を設け、情報を共有し、問題を共通理解する。②「下野庭スタダール」を基にした指導の確認をするとともに、児童の状況や支援策を共有し、指導に生かす。③タブレットを安心して使用できるように、使用ルールの共通化を行う。	①学年研究会・職員会議の中で定例化した「児童理解」の場を設け、情報を共有し、問題を共通理解する。②「下野庭スタダール」を基にした指導の確認をするとともに、児童の状況や支援策を共有し、指導に生かす。③タブレットを安心して使用できるように、使用ルールの共通化を行う。	B	児童指導	①学年研究会・職員会議の中で定例化した「児童理解」の場を設け、情報を共有し、問題を共通理解する。②「下野庭スタダール」を基にした指導の確認をするとともに、児童の状況や支援策を共有し、指導に生かす。	①児童の打ち合わせなど定例化されたものはもちろん、それだけでなく自慢から児童について情報共有を行うことができた。ただ、何を伝えるかについての基準ははっきりしていなかった。目的をはっきりさせる必要がある。②スタダールの中にタブレットの項目を作ったことで、安心してタブレットを使用させることができた。さらに学校全体で統一して指導できるよう、共通理解を図る必要がある。	B	児童指導
豊かな心	①たてわり活動がめあてを意識した活動となるよう、たてわり委員会を中心に年間を通して計画的に行う。②幼保小交流では、グループで相談や話し合いをしながら、1年生と園児が一緒に楽しむ活動を計画し、園児に思いを寄せながら実践していく。	①委員会の児童を中心に、継続的に活動を進めることができた。たてわり活動は異学年の交流と一定の成果があった。②各園と話し合っって年間交流の計画を立て、無理なく実施することができた。	B	豊かな心	①たてわり活動がめあてを意識した活動となるよう、たてわり委員会を中心に年間を通して計画的に行う。②幼保小交流では、グループで相談や話し合いをしながら、1年生と園児が一緒に楽しむ活動を計画し、園児に思いを寄せながら実践していく。	①たてわり活動がめあてを意識した活動となるよう、たてわり委員会を中心に年間を通して計画的に行う。②幼保小交流では、グループで相談や話し合いをしながら、1年生と園児が一緒に楽しむ活動を計画し、園児に思いを寄せながら実践していく。	B	豊かな心	①たてわり活動がめあてを意識した活動となるよう、たてわり委員会を中心に年間を通して計画的に行う。②幼保小交流では、グループで相談や話し合いをしながら、1年生と園児が一緒に楽しむ活動を計画し、園児に思いを寄せながら実践していく。	①委員会の児童を中心に、継続的に活動を進めることができた。たてわり活動は異学年の交流と一定の成果があった。②各園と話し合っって年間交流の計画を立て、無理なく実施することができた。	B	豊かな心
ブロック内評価後の気づき	小中の連携を深めるために、中学校、小学校で授業参観を行うことができた。その後の交流会において、それぞれの実態の把握と学習状況について情報交換を行った。小中合同ボランティア、職員総出で行って、児童生徒の交流を促すこと。児童生徒の理解を深めるための講演内容の検討を進めていく。人権の取り組み、あいさつポスターを作成し、あいさつへの意識を高めている。来年度、あいさつ運動での交流を進めていく予定である。自分づくりバスポートの活用と保護者への伝え方について、よりよい活動になるようにブロックで情報交換して検討していく。			ブロック内評価後の気づき				ブロック内評価後の気づき				
学校関係者評価	タブレット端末などICT機器が授業の中で自然に活用されている。1年生の児童もタブレットを使って学習を進めていた。この3年間で学習の進め方が大きく変わったことを感じる。教師の一斉授業ではなく、グループ学習など子どもたちが主体となって学習する授業がある。子どもたちが同業し、子ども同士で意見を言い合ったり、教え合ったりする姿があつてとてもよい。人懐っこい子どもが多く、子どもたちに話しかけると自然に答えて話をすることができた。朝の見守り活動のときなど、学校外であつたときにも子どもからあいさつをしてくる姿があつてとてもよい。			学校関係者評価				学校関係者評価				
中期取組目標振り返り	個別最適な学びと協働的な学びについて重点研究するめあてと、子どもが学習に意欲的に取り組む姿が見られるようになった。ICT機器を活用することで、一人一人の学習を充実させたり、協働的な学びに結びつけたりすることができた。全職員で児童の情報を共有する機会を定期的に設け、児童指導について共通理解を図るよう努めてきた。あいさつ運動を年間を通して行うことで、あいさつ運動の習慣を定着させることができた。地域の障がい者施設へ行くことで、学習を充実させることができた。日々の教育活動の様子を学校便りやホームページで発信したり、懇話会で参観していただいたりするなど、地域に信頼される学校づくりに努めてきた。			中期取組目標振り返り				中期取組目標振り返り				